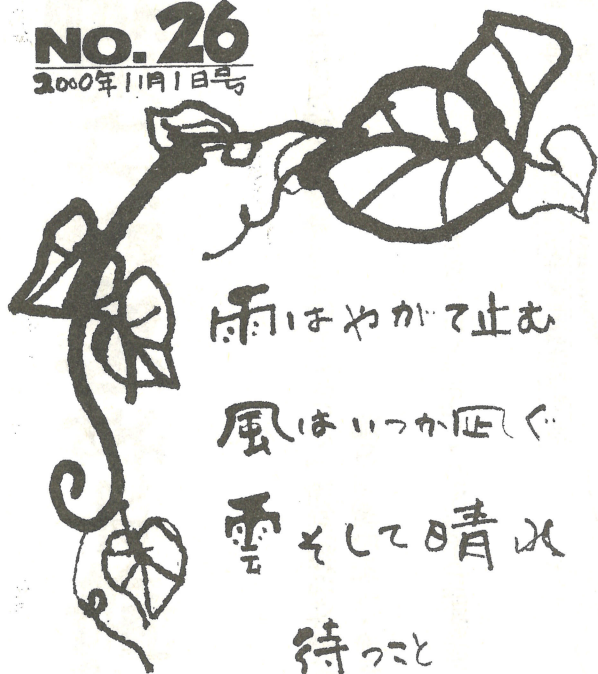


No. 26
2000年11月1日号



雨はやがて止む

風はいつか止む

雲もして晴み

待つこと

願うこと

信じること

も

忘れずに

いいたい



やませみ

てんらんきん とうのすやま
天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報

編集室
から
FROM
EDITORS



「生きものつてどうして間違わないで同じ種とだけペアになれるんだろ？」子どもの頃からの大切な不思議です。理科の教員に話すと「メカニズムはまだ説明されていないんだが、匂いという説がある。」違うんだな、私はこの素敵な不思議を一緒に楽しみたかったのに。《解明》されても知りたくないし、何でも判るってつまらない。ニワトリの2本足は不安定だから4本足にしようとしている科学者がいると聞きました。「じゃあ、卵を作れよ！ニワトリの手を借りずにサア」とツツコミたくなりました。生きものは自身で種を強くしていくからすごいと思う。人間は弱つちから遺伝子組み替えなんてやるんだろ。秋、必死で血を吸おうとする蚊。(偉い！真剣に生きてる！)と思いながら叩き殺してしまつたのでした。



日よう日る里散歩

「里山生きもの調査隊」

天覧山・多峯主山の仲間たちを訪ねて調査隊が動き出します。植物・昆虫・鳥に哺乳類……里山調査隊サポーター登録受付中です!!

■十一月十二日(日)

水辺の生き物を見つけよう

○午前九時三十分能仁寺山門前集合

○長靴でどうぞ・持ち物・お弁当(ムカゴご飯も作ります)お椀と箸

■十二月十日(日)

大きな木探そう! (予定)

○午前九時三十分能仁寺山門前集合

○長靴でどうぞ・お弁当水筒持参

■十一月一日

二十世紀の初調査

○午前六時、能仁寺山門前集合

*元日は初日を見た後、天覧入りで観察を行います。

問合せ先 ☎0429710189

遠藤まで



会員募集中!!

◆1995年2月、西武鉄道による巨大地開発の計画が出されて以来「天覧山・多峯主山の自然を守る会」は、この地の自然をいつまでもという思いで、さまざまな活動を続けて参りました。どうぞあなたも会員になって活動を支えて下さい。

年会費 一般会員・・・20000円

ファミリー会員・・・30000円

賛助会員・・・10000円

協力会員・・・無料

2000年11月1日発行

やませみ NO. 26

●編集・発行／天覧山・多峯主山の自然を守る会

●事務局／浅野正敏

0429(74) 1691

埼玉県飯能市柳町18・17

小船堀子(72) 4602

●編集局 TEL&FAX

鈴木弘子(77) 0141

申込用紙・やませみは 左記にあります。

谷口眼科・銀河堂・Cafe裏

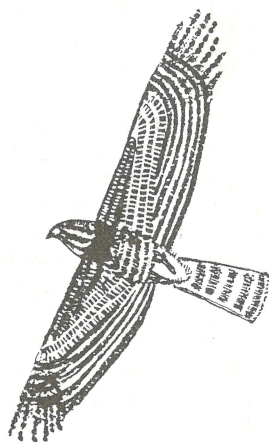
会費・カンパ等送り先

郵便振替名称

天覧山・多峯主山の自然を守る会

番／00580・9・16342

・サシバの渡り・



サシバ *Butastur indicus*
L49cm W102.5 ~ 115cm

サシバというタカをご存じですか。春から夏にかけて、日本で子育てをし、冬を台湾から中国、東南アジアといった地域で過ごす中形のタカです。オオタカ・イヌワシなどと違い、絶滅危惧種に指定されていないため、新聞などに取りあげられることも少なく、なじみのない方が多いのではないのでしょうか。しかし、サシバは「里山」に住み、人にきわめて近いところで生活しています。エサにしているのはカエル・トカゲ・ヘビといった、田やあぜの生き物です。そのため、里山の田圃が乾田化する、休耕田になる、宅地化される、これらがすぐにその生存をおびやかします。

飯能の付近でも、最近まで子育てをしていました。しかし、田圃が埋められてきれいに整地されたため、その姿が見られなくなりました。

サシバには、「オオタカ」のように、開発を止める力はありません。「里山」に暮らす人の事情によって、突然環境が変わってしまう。それは、きわめてありふれた日常的な出来事であるため、「ニュースになることもありません」。

その環境の変化によって、サシバは人知れず、ひっそりと数を減らしています。

もちろんそれは、日本だけではなく、東南アジアの急激な開発の問題であるのかもしれない。ただ、はつきりしていることは、どの地域であれサシバの数が少なくなること、それは「身近な自然」が、なくなっていくということです。

毎年秋、そのサシバが天覧山上空を通過し、東南アジアに渡っていきます。関東平野が終わり、山が立ち上がるころは、上昇気流が発生しやすい地形のようです。タカはその気流をとらえ、旋回しながら高く上昇し、グライダーのように滑空しながら飛び続けます。目指すのは富士山、伊良湖、四国、九州、南西諸島、そして東南アジア。途中ほとんどエサもとらず、数千キロを一気に飛び続けます。

秋の晴れた日、数十羽のサシバが群をなして上昇していく姿を見るため、タカ好きは天覧山に登ります。ほかに、ハチクマ、ミサゴ、ノスリ、ハイタカ、ツミ、ハヤブサ、チゴハヤブサと

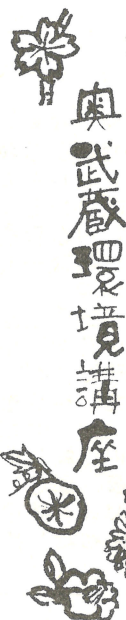
いったタカが、この付近を通過してきます。それらのタカを、山頂に集まった人たちが、無事に目的地に到着するようにと見送ります。

2000年・秋は、例年になくサシバの数が少ない年でした。1999年・秋は599羽を記録。しかし、2000年・秋は、306羽。所沢や青梅などの調査地点では、サシバの数に大きな変化はありません。このことから、どこか別の場所を通過した、観察していない時間帯に飛んだ、高く遠くを飛んで見逃した、などと考えています。環境の悪化によって激減したのではないことを、祈りたいものです。

春になると、サシバがまた戻ってきます。子育てのために帰ってくるサシバを、春霞の天覧山で出迎えたいと思います。

日本野鳥の会東京支部・安田重夫

第四回



奥武蔵環境講座

身近な自然をもっと知ろうということ、昨年一月に始まった奥武蔵環境講座も第四回目となりました。飯能を詠む楽しさを広げるために、ぜひご参加下さい。

講演 自然と文学

―俳句に於ける自然観―

世界文学の中で日本文学はいくつかの特有の側面を持っているが、その一つとして短詩型が著しく発達した点が挙げられる。殊に俳句と自然との結びつきは世界的に例を見ない自然観照の文学を成立させた。俳句における自然の捉え方を具体的に見てゆくと、そこに日本人に特有の感性が浮かび上がってくる。その感性はまさに我々の身の回りの自然によって育まれたものであり、日本人にとって日本の自然が及ぼしてきた影響の深さを文学の面から改めて知られることになる。

講師・駿河台大学教授、埼玉県環境アドバイザー 内田康夫先生

日時・11月26日(日)

午後1時30分～4時30分

会場・飯能市美杉台公民館集会室

入場無料

共催・(財)埼玉県生態系保護協会飯能

後援・埼玉県 名栗支部・はんのう景観トラスト

埼玉県教育委員会

問い合わせ・鈴木0429-77-0141

シリーズ「自然と共に生きる」

くらしの
中の
浄化

初めにコンサルタントの方から中間報告について一通りの説明をいただき、その後質疑応答に移りました。

A simple line drawing of a turtle facing right, with a small plant or rock formation to its right.

県民休養地の位置は？

「中間報告」って
どんなもの？

私達が飯能の山里でくらすことになり、初めにしたことは裏山の荒地を耕し直し、畑をつくったことだ。また、古い杉の桶を見つけた。櫓を削り天秤棒を作った。これで汲み取り式便所より下肥を畑に運び上げる道具が揃った。この山里にも、二十数年前のその頃は、日本の山里の伝統的な暮らしが色濃く息づいていた。そのひとつが下肥を使った畑作だった。

裏山の急斜面の畑は、その後広くなり、春のジャガイモ、夏のナス科の野菜、マメ類、ウリ類、秋のハクサイとダイコンを中心とした菜の物、ニラやネギなどを育ててきた。特におい

しいのは、小カブとノラホウド。
野菜クズにE.M発酵菌を混ぜて、できた液肥はトイレに入れ、発酵野菜クズとその他の有機物(仕事で出たオガクズや木彫りのクズ、雑草や木の葉など)と混ぜてコンポストで堆肥を作り、これを畑の元肥とし、他には薪ストーブの灰と下肥を追肥として使っている。それ以外の肥料も農薬も使っていない。我が家の畑は、こんな風に菜園でもあるが浄化槽でもあり、私の運動場にもなっている。
小さなリサイクルの実践によって、自然の豊かな循環の中に、私達の暮らしが再生してゆくことを、耕す、食べる、排泄する、収穫するその一つ一つ

今、日の出町のゴミ処分場が大きな環境問題となつてゐる。焼却場から処分場へと捨てられる灰は、ダイオキシン、砒素、カドミウム、水銀、鉛、クロムなどが高濃度に濃縮されている。再生可能な消費をしておこなつたツケが、こゝへ現れてゐるのでないか。そして飯能市の処分場も同じである。私達は一人一人のくらしの中で、浄化再生を進めてゆくだけでなく、力を合せてゴミの無い社会を創つてゆける力が必要なのだろう。

早瀬成憲

質疑応答



第1案・昔の計画地の性質に近づける。
奥の方は全部第3段階で考え、能仁寺のあたりは第5段階として人が入りやすく整備する。山の中にある壊れたベンチを直す位。

第2案・今よりは自然を戻し、人も今より入りやすくする。

天覧山山頂の方は第3段階であまり手を付けず、河原や民家近くは第4段階、街の近くは第5段階とする。入り口らしい場所と気軽に散策できる自然観察ゾーンを制定し多峯主山の山頂はしっかりと守る。

第3案・ハイキングルートも整備し、人が手軽に親しめるようにする。

両側を第5段階として施設のある地区を設置して拠点とし、後方は自然との触れ合いのゾーンを少し大きめに設ける。

段階	1	2	3	4	5	6
地域内容	絶対保護地域 (主として原始景觀地域)	原始景觀地域で最小限の開発を許す地域 (無車道地域)	自然環境の保護が尊重される地域	自然環境と共に開発計画される地域	自然公園の集団施設地区など開発が重視される地域	都市開発・工業開発が考えられる地域
人工面占有割合の限度	0.10%	2	5—10	中密度 20—30	高密度 40	

(出典：自然公園における収容力に関する研究／環境庁1973より)

Q. こんなに駅に近くて自然が残っている所はそんなに無いと思うんです。すでに今、小学生でも歩ける道がありますから、施設を作つて利用しやすくすると言うより、豊かな自然をどうやって残すかを考えて計画して欲しい。これからの時代、ますます行政も社会のニーズもそういう方向にいくと思うのです。

A. そうですね。ただ基本的には県民休養地計画というのは、自然公園の中に於ける集団施設地区というか、利用拠点を作る話だと思ふんです。こういう風に市街地が周りに迫つてきた場合、利用しながら保全するという形で取つた方がいゝと思う。何もしないでただ取つておきましょう、というのはおそろいじゃない。それと、このレベールの林の場合は積極的にいじつた方が豊かだと思ひます。

守る会の質問Q・表Cの計画地容量の設定という数値的資料は古く、1973年当時のものとでは、環境に對する考え方は異なりますが、つと新しい基準は無いの思ひますか？

コンサルタント会社の答えA・これが一番新しい環境庁の30年自然度を言う場合、もしくは、なく、その分類は自然度で言え、里類、山、雑木林、ランクは、然度で言え、自然は大切。と言うのが、最近の言い方です。

この天覧山・多峯主山の周辺の里山はこれまで、飯能のシンボル地として人々によつて大切に守られ、豊かな歴史と文化を育んできました。現在もオオタカを頂点とした豊かな生態系を留めた自然環境は深く市民に親しまれています。県は「中間報告書の計画案は、あくまでタタキ台であり今後は市民参加型の取り組みが重要である」と言っていて、現在会としてもこの地の現状調査や資料収集の作業を続けています。さらに今回のような学習会も重ねながら、今後は市民自らが知恵を出し合い、楽しみながらこの地を維持・管理・運営してゆける方法を模索しつつ市民が本当に願う、次代へと手渡すゆける保全案の提案をしてゆければと思います。

Q・この地域は元々は里山で人の手が入っていましたが、たまたま開発されずに何十年も放置されたので、逆に他が。こういふケースで考えたと思うのです。A・今は里山として使っているのか？はどうか。考えたらいよいと思いませんか？も農業もやつてません。農家で落ち葉を集めるなどというところもありません。形態は無理だと思います。そうすると里山として守りたいのか、ほっぽって置いて将来鬱蒼としたジャングルのようにするのか考えた時、私は人が関わるかどうかと思ういます。これは重要な観点で、手を入れて中に入ってもいいというふうにしておきたい。

Q・里山の特徴というのは非常に複雑で、なかなか的確に捉えにくいのです。が、それを改めて再生するという時に、市民参加という形を是非提示してほしいと思います。これからはほとんどのものが入り得ない状態になり、行政の決定に市民の意見が反映しないという状態は維持管理をしていく、あるいは作っていく、あるいは参加する、という形になってくるとおもいます。

1977年天覧山・多峯主山周辺に
 分譲地計画)とした。現小山市長(武蔵小
 時市議)等を中心とした反対運動が起
 こりました。その結果、開発面積が縮
 小され、残ることになった緑地の保
 全策の一つとして「飯能県民休養地構
 想」が立案されたのでした。
 その後団地開発は実施されず、県民
 休養地もいくつかの事業が行われた
 けれど休眠状態となっていました。しか
 し1995年、突如西武鉄道から開発
 申請が出された。その中には保全校
 が計画されていた緑地の中に学校と道
 が求めたのは、設立され、開発の変更
 を求めたのは24年前とは行動を異にし
 小山市長は立場となつています。
 緑地を守る事の難しさの中で、当
 の働き掛けなどによつて「飯能県民
 養地構想」の再会を図る事は出来ず、
 休養地も現在協議市が設置すべき「
 展してない状況に有ります。

● 県民休養地計画
今までの推移



早瀬成憲